

【今年度の取り組みについて】

「授業改善」という手法の中で「内容(学習指導要領など)」と「方法(主体的・対話的で深い学び)」を確認、工夫しながら「目標を達成すること」を目指してきました。

- ①授業の振り返りをする際、目標を見直すこと
- ②学習指導要領チェック表を用いた生徒の実態交流及び指導内容の確認
- ③「主体的・対話的で深い学び」を意識した手立ての工夫

○今年度の校内研究における成果と課題

【成果】

- ・今年度の授業記録用紙は、目標をより意識しやすい様式だったので、授業ごとに目標について常に、振り返ることができた。
- ・目標を達成するための手立ての工夫が多くなされ、目標達成に繋がった。

【課題】

- ・年度初めに個別の教育支援計画などを持ちて目指したい子どもの姿を共有することができたが、各教科ごとの年間を通した目指す子どもの姿が共有されないまま、スタートしてしまった。

○主題について

研究主題

「何を学ぶか」と「どのように学ぶか」の先で「何が身に付いたか」の検証
～「何ができるようになるか」に着目した授業改善を通して～

【保健体育】

○目指したい子どもの姿(年度当初)

- ・スポーツを楽しむ態度、意欲の向上
- ・様々な運動の経験を通して、体を動かすことの楽しさを感じてもらう。
- ・運動を行う・見る・支えるといった視点で関われる資質や能力を育てる。

○各教科の授業ごとに何が身についたか(現在)

- ・ボッチャで球を投げる技能の向上
- ・大会参加を通してスポーツでの人との関わりについて学ぶことができた。
- ・「行う・見る・支える」というスポーツの関わりについて、スポーツといえば行うという認識だけだった生徒がボッチャの審判や発表会等の取り組みを通して見たり、支えたりする経験をしたり、野球の話が好きだった生徒がサッカーなど他種目の話をするなど、卒業後のスポーツの関わり方について視野を広げることができた。
- ・e スポーツを通し、卒業後に身近に楽しめるスポーツを経験し、余暇や生涯スポーツに繋げることができた。

【情報】

○目指したい子どもの姿（年度当初）

- ・PC 操作に関わる基礎的な知識や技能を身につけることを通して、生徒自身の就労や趣味など卒業後の生活を広げる。

○各教科の授業ごとに何が身についたか（現在）

- ・word のテキストボックスや画像の挿入などの基本的な操作や powerpoint でのグラフの挿入、Excel でのプルダウン機能による選択などの基本操作の習得。そのことで卒業後の進路先でも取り組める知識を得た。
- ・メールでのやりとりを通してメール操作を理解すること。そのことで卒業後の友人との交流に繋がられる知識を得た。

【美術】

○目指したい子どもの姿（年度当初）

- ・「美術をやりたい」という子どもを育てたい。

○各教科の授業ごとに何が身についたか（現在）

- ・年度当初に比べて、「美術をやりたい」という子どもが増えた。

【国語】

○目指したい子どもの姿（年度当初）

- ・文章を読み取る際に、文章に表れていない登場人物の心情を理解することができる。
- ・文章全体から要旨をまとめることができる。

○各教科の授業ごとに何が身についたか（現在）

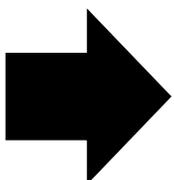
- ・登場人物の心情理解について、最初は「わからない」という発言が多かったが、授業を重ねるごとに自分なりの答えを見いだすなど考えることの幅が広がった。
- ・文章全体から要旨をまとめることを通して、日常的なやりとりでも他者の話の主旨を捉えることができ、問いかけに答える場面が増えてきた。

○仮説について

研究仮説

適切に設定された目標に着目した授業改善を行うことで、児童生徒に育成したい資質・能力を着実に身に付けさせることができるであろう。

仮説について、「目標の見直し」というステップを挟んだ「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた手立て等を工夫した日々の授業改善は、生徒が必要な力を身に付けることに繋がってきたのか。



繋がったが、年度初めに各教科ごとの目指す姿（ゴール）を確認する必要があった。